



- 1 創立100周年寄稿
- 2 2012事業予算承認
- 2 鶴澤総明教育振興・奨学金創設
- 3 創立100周年記念事業募金寄付者芳名
- 2 第1回スピーチコンテスト開催決定
- 4 100周年編纂余語、明校ひとくちメモ



記念事業を振り返って

明治大学付属明治高等学校・中学校前副校長

小西哲男（保健体育科教諭）

御座いました。紙面をお借りしてお礼申し上げます。

さて、今年本校は「世界へー世界に飛び出し『己』を知らうー」をキーコンセプトに創立100周年を迎えます。そこで歴史を知る人間が過去の歩みを伝えるのが使命と感じ原稿依頼を受け、就任から調布校地移転までの歩みを各周年事業から振り返ってみました。

昭和48年の神田・猿楽町での創立60周年記念事業は、戦前からの校舎の老朽化と文部省（当時）の指導要領全面改訂（全人教育・知育偏重教育の是正・高校武道必修化等）に伴い教室・体育施設等不足が生じ、法人と学校債による基金で2号館（教員室・視聴覚教室・体育館等）・4号館（生徒ホール・格技室等）を建設しました。また、PTAの全面的支援により、昭和45年志賀高原山田牧場に完成し、その直後に焼失した南志賀学寮を再建し、都会の生徒たちに情操教育の場を再び設けました。

創立70周年事業では初代校長鶴澤総明先生の胸像建立と教

室校舎内の教育環境の整備、生徒が利用するシャワー室の新設等が挙げられます。鶴澤先生の「天下の明治」「第一級の人物たれ」の教えを頂き、勉学に励むよう建立された胸像は、今も調布校地正門で本校生徒を見守っています。

創立80周年時は来る周年事業に向け募金活動等は行わず、厳粛かつ盛大な式典等で80年の歴史を顕彰しました。

2008年調布校地移転決定後の創立90周年は、御茶ノ水最後ということもあり、退職教員・卒業生を中心に神田・猿楽町の歴史を留め置くため、過去の年誌を基に記念誌の編纂と移転後に必要となる教育環境整備の為に基金を募りました。その基金は調布校地の紫紺ホール（1440名収容）の絨帳等や、今回の100周年事業にも活かされています。

今年実施する創立100周年事業はグローバル化を主とした教育記念事業、奨学金制度の創設等、本校の今後100年を見据えた教育基盤を築く計画を遂行中です。皆様方には本主旨を御理解いただき、本校が未来永劫に発展するよう尚一層の御支援御協力をお願い致します。



100周年が叶えてくれる理想の英語教育

西原春雄（英語科教諭）

論で教育しています。私が外国人と初めて会話をしたのが18才、海外に出たのは25才過ぎてからです。

現在の明治の英語教員は、若い頃から海外生活の経験が豊富で、会話力は半世紀近い前の私を含めた過去の教員と比較すると、ネイティブに近い英語力を持ち、最新の理論で教育しています。私が外国人と初めて会話をしたのが18才、海外に出たのは25才過ぎてからです。そんな当時でも、我が校は他の学校と比較して国際化においては進んでいました。中には、スピーチコンテストに生徒を出し、米軍の基地見学引率をし、外国人を努めて授業に参加させる教員がいました。また、英字新聞を使い時事英語・リスニングを教えていた教員もいました。外国人講師は50年前からいて、色々な場面で学校と関わりを持ち、教員採用にも立ち会っていました。語学研修は、最初はハワイ大学へ、私が引率する頃には、引率教員と生徒10人ぐらいからなる、ホームステイ2回、キャンプ1回のアメリカ横断31日間の研修でした。交換留学もやりました。私が入る前までは、英語教員が米国大学で日本語を教えていました。でも、今のように組織的ではありませんでした。

現在の我が校は英語教育は全ての点で大幅に進化しました。組織として、最新の理論に基づき、成績や授業アンケートを基

に、生徒一人一人に合ったきめ細かい授業を展開しています。英語教育界で推奨している多読学習法を積極的に取り入れ、日本語を読む以上に英語を読んでいると言えるぐらいに、生徒は英語の本を読んでいます。補習はもちろんのこと、早朝英語や授業外の英語強化コースもあります。その結果、生徒の英検の習得率はトップレベルです。国際化は格段に進化し、英語圏以外の国と交流するほどになり、交換留学制度もできる予定です。100周年記念スピーチコンテストは、回を重ねていずれば全国レベルのコンテストになり、教室では英語以外の教科も英語で授業が行われるようになるでしょう。明治大学に呼応したイングリッシュ・トラック中高版の完成です。

数年後この学校に訪れる時は、生徒は世界中からの留学生と英語で談笑し、教員は英語で授業をし、日本中から学校見学に来る、そんな理想的な学校になっているでしょう。今の教員の資質と意欲、生徒の英検習得レベルの更なる向上、そして、学校が組織体として強力に推進している国際化への取り組み等を考えると、間違いなく実現するでしょう。教員と生徒に大きな意味と爽やかな緊張感を与えてくれる100周年。紫紺を胸に羽ばたけ世界へ、明高中！

鵜澤総明教育振興・奨学金プログラム創設

創立100周年記念事業の一つとして、「鵜澤総明教育振興・奨学金プログラム」を創設しました。この奨学金プログラムは、本校がこれまで歩んできた100年の伝統と偉業を継承するとともに、新たな100年を見据えた教育振興・奨学金プログラムです。このプログラムによる最大のねらいは、100周年記念事業募金による寄付金（積立金）を原資とする奨学金の活用による、海外留学、体験学習、受け入れ留学生との交流等を通じて、グローバル社会におけるリーダーを育成することです。今後は、このプログラムを利用した生徒が積極的に海外に飛び出し、グローバル視野を持ち合わせた人材へと成長していくことと大いに期待するところです。主なプログラムは下表のとおりです。この他、チャレンジ奨学金プログラムとして、ドリームフォロー奨学金、文化・芸術・スポーツ奨励奨学金も創られました。

グローバルスタディプログラム

名 称	内 容
グローバル人材育成プログラム	本校又は明治大学の海外協定校・提携校に生徒を長期（6か月以上）派遣するプログラム。
「世界を知ろう」フィールドワークプログラム	本校が100周年を記念して実施する英語プレゼンテーション、エッセイコンテスト等において、優秀な成績を収めかつチャレンジ心旺盛な生徒を海外に派遣し、現地におけるボランティア活動や現地住民との交流プログラムへの参加によって、異文化の理解や国際的なコミュニケーション能力の涵養を図るためのフィールドワークプログラム。
海外交流体験プログラム	本校の海外協定校・提携校等と共同で実施する生徒間交流プログラム、ワークショッププログラム、研修等に参加する生徒に対する支援プログラム。
訪問留学生サポートプログラム	本校の海外協定校・提携校等と共同で実施する生徒間交流プログラム、ワークショッププログラム及び研修等に参加するために来日した留学生に対し、ホームステイ先として受け入れてくれた家庭に対する支援プログラム。
文化・スポーツ海外交流支援プログラム	海外の学校・団体等と共同で開催する研究発表、演奏会、交流試合等に参加する本校の班・部に対する支援プログラム。

第1回英語スピーチコンテスト開催決定！

本年6月、鵜澤総明教育振興・奨学金プログラムを利用した第1回英語スピーチコンテストを開催します。出場資格は現中学1年生から高校Ⅱ年生に与えられ、入賞者には、夏休

み中に開催する夏季海外交流体験プログラム（開催予定地：ニュージーランド・オーストラリア）の参加費を奨学金として給付します。なお、来年2月には第2回コンテストを開催し、春休み中に海外交流体験プログラム（開催地未定）を実施する予定です。

2012年度 事業予算（積立金）

2012年2月17日（金）に開催された、第11回創立100周年記念事業委員会において、2012年度の事業予算が決定しましたので、お知らせします。

（単位：円）

勘定科目	予算額	内 容
助成費	8,600,000	鵜澤総明教育振興・奨学金プログラム
旅費交通費	320,000	資料調査交通費等
業務委託費	900,000	パネル展示作成
その他の消耗品費支出	90,000	募金封筒、事務用封筒全般
印刷製本費	410,000	事業ニュース（年3回発行）、募金振込用紙等
郵便費	180,000	事業ニュース、募金領収書発送等
運搬費	5,000	募金趣意書運搬等
支払手数料	405,000	校内行事講演者謝礼
雑費	90,000	スピーチコンテスト審査員謝礼、ネイティブ指導謝礼
計	11,000,000	

「世界へ」世界に飛び出し己を知ろう！ 100th Anniversary English Speech Contest



まずは、3月5日（月）説明会に参加しよう！
All our dreams can come true
- if we have the courage to pursue them. - Walt Disney
『正しい道は勇気があれば、すべての夢は必ず実現できる。』ウォルト・ディズニー

創立100周年記念事業募金寄付者芳名

今回は2010年11月の募金開始から、2012年1月31日までに受け付けた全ての御寄付を対象として掲載しております。
2010.11.1～2012.1.31まで到着分累計 430件 7336万3202円

※創立100周年記念事業募金のみに対する御寄付の累計額です。

2771万円

明治大学付属
明治高等学校・
明治中学校PTA殿

2000万円

明治高校同窓会
総明会殿（*）

112万1311円

明治高等学校総明会
チャリティ基金
賛同者一同殿

100万円

前田 忠昭殿
明高中PTA
2010年度文化祭実行
委員会殿
山浦 晟暉殿

80万円

クロコダイル
黒子 昇殿
坂口 泰通殿

50万円

金井 照治殿
金子 光男殿
小西 哲男殿
高橋 信殿
田中 徹太郎殿
長堀 守弘殿
宮下 守正殿
明治大学付属明治高等
学校 2010年度卒業
生保護者一同殿
吉田 信行殿

30万円

明治大学付属明治中学
校 2010年度卒業生
保護者一同殿
山崎 敬生殿
匿名 1件

20万円

井家上 哲史殿
笠松 浩義殿
栗原 圭介殿
小林 正三郎殿
中村 正容殿
匿名 1件

13万円

吉田 直樹殿

12万円

北村 純殿

10万2000円

間中 敏訓殿

10万円

井上 薫殿
エーゼット(株)
代表取締役
服部 雄二殿
岡田 敬太郎殿
尾島 育四郎殿
金子 友治殿
菅野 直行殿
近畿日本ツーリスト
(株)東京第3教育
旅行支店殿

栗田 健殿
佐久間 洋一殿

杉田 光治殿

鈴木 重之殿

鈴木 正男殿

瀬上 富雄殿

高橋 郁夫殿

田中 智章殿

寺土 博昭殿

土岐 明利殿

中島 富之殿

西脇 司殿

前島 研二殿

松倉 康信殿

丸山 哲朗殿

水沼 和人殿

明治大学校友会

調布地域支部殿

明治大学付属

明治高等学校応援団

OB会殿

横山 知則殿

吉田 重幸殿

吉田 貞男殿

依元 正美殿

(株)レストラン・

ピガール殿

渡邊会計事務所

渡邊 敬之殿

渡辺 寿太郎殿

匿名 10件

9万円

小岩 孝一殿

匿名 1件

8万9891円

山田 伸夫殿

8万円

横山 和男殿

7万円

匿名 1件

6万円

伊藤 哲殿
小尾 淳一殿
北隅 史倫殿
小林 伸一殿
丞村 裕次殿
白井 正清殿
鈴木 敏雄殿
田村 賢司殿
中村 一雅殿
匿名 8件

5万円

石川 恵資殿

石川 幸一殿

石川 隆殿

石坂 善正殿

石野 忠志殿

鶴飼 友義殿

笹内 律恒殿

佐々木 浩二殿

島崎 真一殿

鈴木 豊殿

竹内 雅彦殿

田中 和彦殿

比留間 竹郎殿

深沢 真美殿

結城 康郎殿

横山 茂樹殿

米山 耕右殿

匿名 10件

3万円

青木 雅之殿

赤羽 太郎殿

秋山 隆明殿

穴水 芳光殿

天野 佳信殿

飯塚 秀則殿

池田 寅泰殿

井上 欣一殿

宇田川 貴弘殿

浦井 紀美殿

大野 正隆殿

岡田 早苗殿

小川 聡殿

勝野 宏殿

加藤 哲朗殿

菊田 聡殿

岸本 宏志殿

木下 弦殿

黒澤 幹央殿

桑江 雄佑殿

権瓶 日向子殿

齋藤 瑠香殿

坂倉 修一殿

坂本 哲郎殿

櫻井 正明殿

佐藤 野都香殿

佐藤 熙男殿

渋谷 拓郎殿

鈴木 恵海殿

鈴木 敏信殿

瀬島 望央殿

高木 正之殿

高倉 尚殿

高橋 郁三殿

高見 二郎殿

高村 裕殿

田口 岳殿

田中 忠彦殿

鶴田 泰史殿

土居 侑希子殿

中島 義博殿

長瀬 隼斗殿

中田 悠太殿

中村 順一殿

中村 光春殿

中山 宏殿

浪越 和民殿

野口 嘉弘殿

野地 優太殿

塙 直樹殿

原 大貴殿

樋口 翼殿

日比谷 功一殿

日比谷 秀徳殿

平子 良雄殿

平田 裕貴殿

平光 隆一殿

星野 均殿

細野 浩義殿

町田 清治殿

松ヶ野 寛殿

三浦 直子殿

三澤 清志殿

宮田 宏殿

森 雅史殿

森川 勝弘殿

守谷 敦殿

安田 芳照殿

矢田部 雄太殿

山内 翔貴殿

山内 智世李殿

山口 隆殿

山田 隆久殿

山本 雅章殿

横山 亜加子殿

若菜 真穂殿

匿名 71件

2万円

石渡 浩二殿

一色 隆行殿

大塚 博殿

菅野 幹雄殿

白井 慶幸殿

中沢 秀文殿

中村 勝利殿

中村 邦彦殿

匿名 9件

1万円

秋谷 操殿

秋山 義昭殿

朝貝 省吾殿

新井 勝良殿

荒木 克郎殿

井形 豊殿

石川 淳殿

石田 真吾殿

大野 和喜殿

大堀 雅義殿

大山 義廣殿

緒方 奨殿

岡本 恒明殿

小川 洋一殿

小田嶋 保男殿

笠井 隆司殿

加藤 義隆殿

金光 淳規殿

木崎 左一殿

木村 修殿

清田工芸(株)殿

國友 昭殿

小宮 由次殿

小室 輝夫殿

斎藤 明日香殿

佐久間 敏行殿

笹田 照雄殿

島野 竹夫殿

清水 通殿

志村 隆行殿

姿 卓殿

杉本 正太郎殿

鈴木 強殿

鈴木 誠殿

關谷 眞司殿

染矢 太郎殿

高橋 晴邦殿

高橋 淑浩殿

辻村 誠之殿

長束 政憲殿

野村 尚之殿

林 正信殿

日向 功殿

藤井 義則殿

藤田 拓殿

布施 義男殿

ベップ・メイツ(株)

大前 実之殿

正宗産業(株)

代表取締役

市川 洋治殿

松原 利夫殿

丸山 貞二殿

三浦 二郎殿

三木 喜晴殿

宮坂 利夫殿

向山 勝殿

茂木 正男殿

盛田 明殿

森綱 繁夫殿

森脇 学殿

矢澤 利之殿

矢野 正興殿

山崎 陽一郎殿

山田 啓介殿

吉田 茂夫殿

米山 武男殿

匿名 49件

5000円

河西 昭安殿

北村 隆英殿

仙北屋 格殿

田中 不二彦殿

守田 満殿

匿名 8件

3000円

金子 光太郎殿

平井 伸治殿

匿名 3件

金額表示希望なし

山根 誠司殿

**通学用スクールバス
ラッピング**

京王電鉄バス(株)

代表取締役社長

島倉 秀市殿

(*)明治高校同窓会総明会殿からは、創立100周年記念事業募金受付期間以前(2008.10.21)に別途284万5000円の寄付があり、同会からの創立100周年記念事業目的とした寄付金総額は2284万5000円となっている。

100周年編纂余語

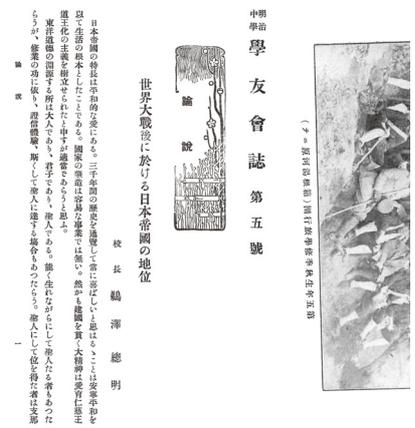
＜校友会雑誌＞

明治高等学校・中学校は、これまで創立60周年に『六十年の歩み』（1972年11月）を、創立90周年に『九十年の歩み』（2002年11月）をそれぞれ刊行してきた。『九十年の歩み』は、『六十年の歩み』を圧縮し、残りの30年間を加えるような形で編纂されたので、『六十年の歩み』のときに蒐集された資料をほとんど使うことなく、段ボールに梱包されたままの状態であった。

2008年に千代田区猿楽町から調布市富士見町へ学校が移転するとき、校史編纂資料も図書や学校関係書類などと同時に運搬されたが、段ボールに梱包されたままの状態がしばらく続いた。昨年4月から100周年史の編纂がはじまり、段ボールの梱包が解かれ、資料の確認作業が開始された。段ボールの中は、『六十年の歩み』の原稿や割付用紙、掲載された写真、退職教員が撮った写真、教務関係書類など、バラバラの状態では保存してあるものが多かった。その中に合冊して製本された雑誌4冊があった。この背表紙に「校友会誌」とあり、第八号（大正8年）年から第二十六号（昭和18年）まで揃っていた。『六十年の歩み』にも「校友会誌」を引用して書いた箇所もあるので、第一号から第七号は校内にある、と思いついて未開封の段ボールを次々と開けていったが、見つかることができなかった。明治大学中央図書館は多くの雑誌を所蔵しているので、「校友会誌」で検索してみると、第十号と第二十一号～第二十三号があるだけあった。「校友会誌」第一号から第七号はないものと諦めていた。

今年に入り明治大学中央図書館へ行く機会があり、明治大学の刊行物や教職員が著者となって刊行した本がずらりと並べてある明大文庫のコーナー（地下3階）へ行った。かつて大学で講義を拝聴した先生の名前を背表紙に見つかったり、神保町の古書店にもないような本も見つけることができた。ひょっとしたら、明治中学校が発行した出版物があるかもしれない、と明大文庫をくまなく見て回った。すると、書架の最下段に「校友会誌」があり、そのとりに合冊して製本された「校友会誌」があった。「校友会誌」を手にとって見ると、「校友会誌」第一号から第十号まであり、中表紙に「瀧澤総明殿寄贈」と記してあった。後日、本校の司書教諭の江竜先生に必要な手続きをとってもらい、「校友会誌」のコピーをとった。これで「校友会誌」が揃ったことになる。

「校友会誌」は、教員だけでなく中学生が書いた文章も掲載している。「校友会誌」の構成や性格などに関する情報は、今後の調査に待たなければならぬが、会誌の名称が第二十五号（昭和16年）から「報國團誌」と改められている。世相の反映であろう。変わらないのは、毎号の巻頭を論説で飾っていたことである。もちろん、この執筆者は校長瀧澤総明先生であった。



横断幕設置

創立100周年を記念し、正門脇（明治大学テニスコートフェンス）と紫紺ホール壁面に横断幕を設置しました。事業NEWS第2号でお伝えした街路灯フラッグと合わせて、在校生だけでなく、来校者へも広く100周年をアピールしてまいります。この横断幕は2013年3月まで設置する予定です。



ポスター&カレンダー制作

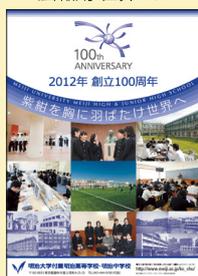
横断幕とあわせて、100周年を周知し機運を高めるために、広報用ポスター2種類（未来ver、世界ver）とカレンダー付きポスターを制作しました。

広報用ポスターは主に官公庁、他校、塾関係者及び明治大学の各部署に配布し、カレンダー付きポスターは昨年12月に在校生に配布しました。

広報用 未来ver



広報用 世界ver



カレンダー ver



明校ひとくちメモ

麻布中学に間借り？

校友会誌に次のような記載がありました。「9月1日午前7時より第2学期授業開始。午前11時58分大震災あり。継いで猿楽町におこりたる猛火はたちまち本校を襲い、午後2時すぎ校舎内全部消失せり」これは大正13年に起こった関東大震災の時の模様です。当時すでに本校は鉄筋の校舎でしたので、近隣の人々の避難場所となったそうです。そこまではよかったのですが、たんすなどの家財道具まで持ち込まれ、これが燃えだして校舎は結局焼けてしまいました。そして、当時焼け残っていた麻布中学に間借りをしたそうです。



● 次号のお知らせ ●

第4号は2012年7月に発行予定です。